

防災アンケートを踏まえて(災害啓発ビラNo.5)

9月に実施した2回目の防災アンケートの結果、次のような注意点を共有する必要がありますので、ぜひ読んでください。

○「在宅避難」が基本です。

- ・避難所は、地震などで自宅が被災し生活できなくなつた場合などに避難生活を送る場所です。(市ハイツでは、横浜深谷台小学校が地域防災拠点として指定されています)
- ・自宅が住める限りは、在宅避難が基本です。
- ・在宅避難のメリットは、次のとおり。

- ①住み慣れた家で、家族と普段に近い環境で生活できる
- ②プライバシーも守れるため、ストレスを軽減できる
- ③感染症のリスクを減らすことができる。

○食料等の備蓄は、10日分以上用意しましょう。

- ・震度6強程度の地震が起きた場合、停電は8日以上続くと予想されています。
- ・快適な在宅避難のために、普段から10日分以上の食料等を備蓄しておきましょう。
- ・必要なものは、食料・飲料水・災害用トイレセットです。
- ・食料については、カセットコンロと湯煎用ポリ袋(100°Cでも溶けないもの)があり、かつ普段食べているお米やホットケーキミックスなどを切らさずにおけば、主食はそれで大丈夫です。
- ・ポリ袋調理について、説明書を昨年度配布しましたので参考にしてください。(湯煎用ポリ袋は百均で売っています)なお、説明書がない方のために集会所スリッパ棚の上の「防災セミナー資料」のトレーに置いておきます。**(裏面あり)**

- ・アンケートでは、ほぼ半数以上の方が3日分以下の備蓄と回答していました。また、8~10日分備蓄の方が昨年の倍になっており、防災セミナーの効果と思われます。

○事前の怪我防止対策をしましょう。

- ・地震時には、道路や病院の混乱などにより適切な対応が期待できません。このため、事前の怪我防止対策が重要となります。
- ・アンケートの結果では、家具・家電の落下・転倒防止対策については、8割（昨年度は6割）の方が実施済みでしたが、未実施の方もまだいます。上部のポール式器具と家具の下のストッパーを組み合わせるとより効果的でするので、ぜひ設置して未然の事故防止につなげましょう。
- ・また、ガラス飛散防止対策については、未実施の方が7割（昨年度は8割）いました。こちらの対策もぜひ行いましょう。

○不安を感じている点について

- ・ライフラインが止まる
⇒前頁を参考に事前の準備を進めましょう。
 - ・トイレ・排水・漏水への不安
⇒災害用トイレセットを準備しましょう。排水が可能になる放送や連絡があるまでは、水の使用を控えましょう。エレベーターが動かないことを想定すると、トイレセットがないと直ちに困ることになります。
 - ・独居、高齢、家族が遠い
⇒普段から近所の方と交流を保つようにして、お互いの安否を気遣える関係を築きましょう。
 - ・避難場所への不安
⇒前頁のように、住める限りは在宅避難が基本です。快適な在宅避難が出来る事前準備を進めましょう。
 - ・エレベーターの使用ができない
⇒前頁のように、停電は8日以上続くと予想されますので、外出しなくても済むように、お米やトイレセットなどの備蓄を進めましょう。
- (市ドリームハイツ自主防災会)

